

どうおうけんれんらくどうろ

道央圏連絡道路(国道337号)



■事業の概要

道央圏連絡道路(一般国道337号)は、千歳市を起点として長沼町、南幌町、江別市、当別町、札幌市、石狩市を経由し小樽市に至る延長約80kmの地域高規格道路です。国際的な交流拠点である新千歳空港、国際拠点港湾苫小牧港、重要港湾石狩湾新港、及び小樽港を結び、札幌圏における人流・物流の連携を図る重要な役割を果たすものです。

整備効果

1 物流の効率化を支援

道央圏は、新千歳空港や苫小牧港等の北海道を代表する空港・港湾があり、本州などへの物流拠点となっています。道央圏連絡道路は、これらの物流拠点と、北海道縦貫自動車道や北海道横断自動車道とを結び、周辺地域とのアクセシビリティが向上することで、物流や人流の効率化による農業や観光等、様々な産業の活性化に寄与することが期待されます。



整備効果

2 交通混雑の緩和

道央都市圏は、札幌市を中核都市として発展を続けていますが、市街地の拡大や都市機能の集積に伴い、交通混雑の緩和が課題となっています。道央圏連絡道路の整備により、道央都市圏の外郭環状道路として放射道路と接続することで、札幌市内へ流入する通過交通の分散が図られることで、交通混雑緩和が期待されます。

■道央都市圏の主要渋滞箇所

